
モンスターハンター紅き剣

G N D M

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター紅き剣

【Zコード】

Z0137M

【作者名】

GNDM

【あらすじ】

大剣使いの青年ディロスは、一人誰ともチームを組まずに狩りを続けていた。

自分の力しか信じず、ただ強くなるために ただその日を生き延びるために、ハンターをやっていた。

そんなある日、辺境の村から弟子入り願望の女性ハンターリアと出会う。

しつこいリアに苛立つていたディロスだったが、同時に何か懐かしさを感じいた。

これは、冷静でクールな一流ハンター・ディロスと、いつもはバカだが狩り場では適格な援護をする初心者ハンターリアの物語。

血几の紹介と注意事項

どうも初めまして GNDM (ジー・エヌ・ディー・エム) です。
この紅き剣は 2nd G を基本に、オリジナルを少し追加したもので
す。

モンスターの強さは、下位から G 級まであります古龍などの特殊な
モンスターの強さは、 G 級をめあすにしています。

(キリンは除く)

装飾品は一部古龍の素材を使う物がありますので、店で直接買つと
いうことがあります。

武器も古龍の素材を主体に使う武器ではないのに限り、古龍の素材
を省きます。(飛竜刀「楓」の獄炎の龍鱗など)

小説を書くのは初めてで、更新が遅れるなどあると思いますが。頑
張りたいと思います。

プロローグ（前書き）

初めましてGNDMです。今回初めて小説を書きますがうまくかかるか心配です。

とりあえずしばらくは大丈夫ですけどやつぱり心配です。？
自分的には真面目なモンハン小説を書きたいと思っているので応援してくれると嬉しいです。

今回オリジナルを含めたモンハン小説で主人公ディロスは一人で狩りを続けていたが、その中で出会った少女リアとの話です。
では始まります。

プロローグ

ここは、険しい山の間に建造された。街でその名前をベリクトルという。街というよりか、砦といった方がしっくりくるような街だ。見た目だけに、対巨龍ようのバリスタや大砲は街の南側に大量にあつた。そこは街へ進入しようとするモンスターの、迎撃区になっていた。

そして反対側にはハンターズギルドがあり、ハンターが依頼をうける大衆酒場もそこにあつた。そこは、ハンターが依頼をうける他に食事ができ、大衆酒場の席は昼夜とわざ人が溢れかえつていた。

そんな中一つの席にそいつはいた。

姿から見ればハンターで、今帰つてきた感じがしていた。

彼の名はディロス、若いながら優秀なハンターでそれは彼の身に付けていた装備が物語つていた。着ている防具は火竜リオレウスから取れる、上質な鱗や甲殻をカブレライト鉱石を下地にしたものに、縫い付けて作つたもので名をレウス・シリーズと呼ばれるものだ。側に立て掛けた武器は人の身長くらいある巨大な剣で深い蒼色をしていた。名をペイルカイザーといいリオレウスの亞種から取れる素材で作られていて、龍殺しの力が備わっている。

これだけ見ただけでも彼がただ者ではないというのはわかつた。

彼はいま狩から帰り、空腹を満たすために先ほど注文した料理を食べていた。

周りは騒がしく、狩の成功を祝つて祝杯をあげる者がいれば、昼間から狩にも行かずただただ酒を飲みまくる者までいるなか、

ディロスの机だけそこだけ別世界のように静かだつた。ディロスは別に寂しくはなかつた、静かな方が落ち着くのも理由だつたが一番の理由は一人ならば全ての責任は自分のせいになるからだ、依頼で失敗をしても全て自分の責任になり誰にもなにも言われることが

ないからである。そして強くなるためである。強くなければ、なにも守れないなにも救えないからである。中にはパーティーを組もうと言つてくる者もいるがディロスは全て断つた。それはディロスの求める強さではなかつたからだ、だからディロスはずつと一人で狩りを続けていた。ディロスはそう考へながら一言も喋らずただ黙々と目の前料理を胃袋へ流し込んだ。あつという間に食べると会計を済ませて大衆酒場を後にした。

風が涼しく星空がきれいな夜だった、ディロスは人の少なくなつた街道を自宅へ向けて歩いていた。すると、背後に視線を感じた何か思つて振り返つてもそこには遅くまで商売している商人や食糧などを運搬している人ぐらいさかおらず誰も見てはなかつた。気のせいかと思つたまゝ自宅へ向けて歩き始めるとまた視線を感じた、ディロスは早く帰りたかつたのでそこから一気に走り出した。

自分を追いかけていた気配も撒いたのか自宅につく頃には感じなくなつた。

一体なんだつたんだろうと思いながらも自宅入り、一応鍵を掛けて床についた。すると徐々に睡魔が来て、ディロスは眠りについた。

プロローグ（後書き）

今回はディロスがどうこうハンターかを書いたつもりです。
うまく書けなく堅苦しく書いたところがありますが、自分的には頑張つて書いたので、これからも頑張りたいです。

次回はディロスが弟子入り願望のハンターリアと出会い話です。
更新は未定ですが速めにしたいと思います。
こんな作品でも見てくれると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0137m/>

モンスターハンター紅き剣

2010年10月30日23時27分発行